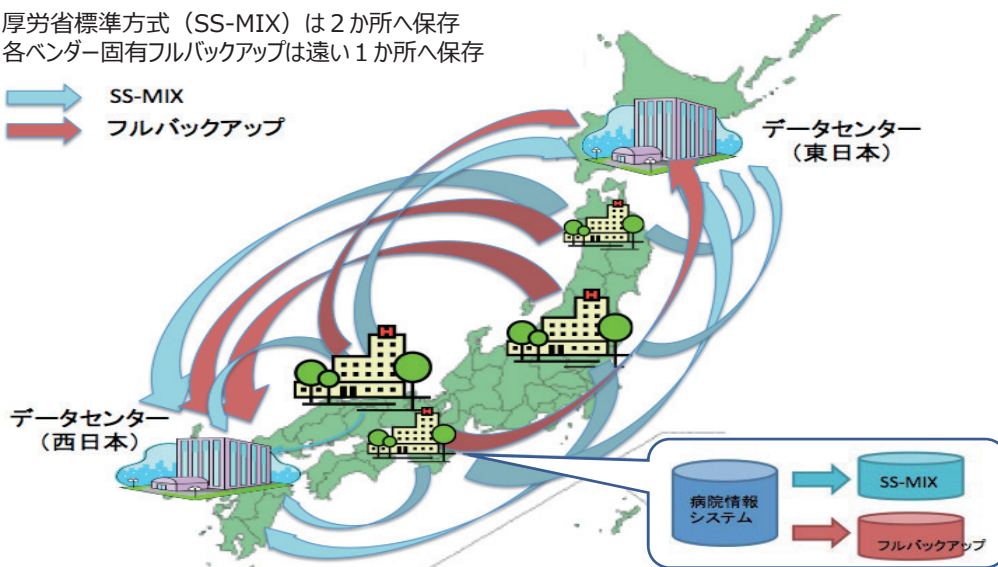


災害時の医療情報喪失をゼロに (全国の国立大学附属病院)

事業者：国立大学法人東京大学

厚労省標準方式（SS-MIX）は2か所へ保存
各ベンダー固有フルバックアップは遠い1か所へ保存

SS-MIX
フルバックアップ



全国の国立大学附属病院(45病院)による診療情報の相互バックアップ体制



対策名： No.58 国立大学附属病院の医療情報システムデータバックアップ体制に係る緊急対策

事業名： 国立大学病院／医療情報遠隔バックアップシステム機能強化事業

- ポイント**
- 国立大学病院の診療情報を東西の2拠点に共通データ形式(SS-MIX2)で保管
 - 災害時に被災病院内外の診療施設や避難所等から診療データのWeb参照が可能

地域の概要・課題

国立大学附属病院は地域医療の「最後の砦」として災害発生時においても、地域の中核病院として、地方自治体や地域医療機関とも連携を図りながら、高度医療を提供し続けることが求められます。

東日本大震災を契機として、『災害に強い大学病院』の基盤構築のため、医療情報のバックアップを行うことの必要性がこれまで以上に認識されています。

事業の概要

平成24年度のバックアップデータ災害時Web参照システムの構築後、診療情報のデータ量増大やサーバ等の耐用年数超過に対応するため、3か年緊急対策としてこれらシステムの更新・機能強化の緊急対策を実施しました。

東日本大震災以降も、熊本地震、北海道胆振東部地震等、災害は後を絶たない現状であり、災害時における事業継続性を担保する上でも欠かせないシステムとなっています。各大学病院においても、同システムの利用について災害時医療計画等へ反映させ、大規模災害を想定した訓練でも活用し、危機管理体制の強化を図っています。

【見込まれる効果】

災害時に過去診療データを参照した適切な診療が提供できます。また、災害後のシステムとデータベースの迅速な復旧が可能となります。

患者によるバックアップデータ自己管理機能や災害時専用の共通電子カルテ機能により、災害時の医療活動等における対応力の確保・強化が構築されました。

